

# 薬物治療アップデート講座③

開催  
日時

12月17日(土) 13:10~16:20

開催方式:Zoomによるオンライン開催(ライブ配信)

受講料:3,000円(定員100名)

※申込締切日 12月9日(金)(定員になり次第 受付終了)

※取得可能単位:日本薬剤師研修センター2単位(予定)

※単位取得には受講前にPECS(薬剤師研修・認定電子システム)への登録が必要です。

※本学在学学生及び教員は無料(要申込)

第1部 13:10~14:40

## 「放射線の基礎と放射線医薬品」

講師:月本光俊 (東京理科大学薬学部 教授)

第2部 14:50~16:20

## 「漢方薬を構成する生薬の役割」

講師:羽田紀康 (東京理科大学薬学部 教授)

【第一部講師より】放射性医薬品を用いた診断や治療の際には、放射線の発生原理や性質の理解も必要になります。例えばPETでの診断では、 $^{18}\text{F}$ などの放射性核種は $\beta^+$ 線という放射線を放出しますが、装置で検出されている放射線は消滅放射線になります。では、なぜ $\beta^+$ 線を直接検出しないのでしょうか？また消滅放射線を診断に用いることには、どのような利点があるのでしょうか？本講義では放射線の基礎と放射性医薬品について講義を行います。

【第二部講師より】本講義は漢方薬の中の生薬の役割についての内容です。皆さんの学生時代、漢方概論(漢方医薬学)等の講義はどんな内容だったのでしょうか。漢方の講義で各論は、それぞれの漢方薬が『何に効くか』、の話が中心で、『なぜ効くか』は詳しい説明があったのでしょうか？本講座では、『なぜ効くか』を生薬の薬能と、組み合わせによる薬効の変化の立場からお話しします。中でも白朮と蒼朮、生姜と乾姜の薬能の違いは詳しく解説します。

申込  
方法

受講希望の方はホームページよりお申し込みください。  
東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター  
(SCCPER)

<https://sccper.sa-advance.com/>

申込についてのお問い合わせ先 [sccper@admin.tus.ac.jp](mailto:sccper@admin.tus.ac.jp)